

2022年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」
自己点検・評価報告書

常磐大学 総合講座自己点検・評価実施委員会

I. はじめに

1. 点検・評価の実施

総合講座自己点検・評価実施委員会が主体となり、総合講座委員会のもとに置かれた総合講座全学基本科目運営会議および全学情報教育委員会（情報教育の授業運営に関するWG）と連携して、2022年度の「常磐大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に関連する授業科目の自己点検・評価を行った。

2. 対象となる授業科目

人間科学部・総合政策学部

『情報の処理Ⅰ』『統計の基礎』

看護学部

『情報の処理』『統計の基礎』

II. 学内からの視点

1. 履修・修得状況

本プログラムの対象科目は1年次必修科目であるため、新入生の履修率は100%である。1年次に修得できなかった学生に対しては、原則として2年次に再履修するよう履修指導が行われており、在学期間の早期に本プログラムの修了要件を満たすように本プログラムは運用されている。

2022年度の履修者・修了者の実績（再履修者をのぞく）

学部・学科 名称	履修者			修了者		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
人間科学部	422	164	258	366	125	241
総合政策学部	285	204	81	251	177	74
看護学部	81	13	68	64	10	54

2. 授業アンケート

本学では本プログラムの対象科目を含めほとんどの授業科目で学生による授業アンケートを行っており、アンケートの結果は「常磐大学ファカルティデベロップメント委員会」より各科目担当教員へ送付されている。このアンケートにより、学生の理解度などを科目担当教員はそれぞれ把握できるようになっている。

2022年度の春semester授業アンケートでは、「授業内容は自分の将来にとって役立つと思われましたか？」の問いに、「非常にそう思う」、「ある程度そう思う」と肯定的な回答をした者が「統計の基礎」で380人/414人中、「情報の処理」で482人/493人中という回答を得ることができた。

また、同授業アンケートにおいて、「総合的に判断して、あなたはこの授業に満足しましたか？」の問いにも、「非常にそう思う」、「ある程度そう思う」と肯定的な回答をした者が「統計の基礎」で387人/415人、「情報の処理」で450人/494人中という回答を得ている。

3. 行動計画の実績報告

2022年度の本学における学修（学習）の成果に基づく教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組み（「内部質保証」）の実績として報告する。

大学評価基準	行動計画 [2022年度計画]	2022年度実績報告 ※年度末報告
[内部質保証] 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。	[総合講座] 引き続き、総合講座自己点検・評価実施委員会においてPDCAサイクルが十分に機能するよう、定期的な点検の場として運営連絡会議と科目運営会議との連携を図る。 全学的な学修成果の可視化に係る方針に基づき、ルーブリックなどを活用した学修成果の可視化を行い、2023年度シラバスに反映させる。	[総合講座] 運営連絡会議の定期的開催し、これを核として科目運営会議と連携して科目運営を行った。ルーブリックを活用した学修成果の可視化には、まず全学の必修科目において着手した。 (全学基本科目) 全学基本科目のうち、今年度より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」として実施している「情報の処理I」「情報の処理」「統計の基礎」については、クラスごとの単位修得状況、成績評定の分布状況を点検し、次年度に向けてクラスごとの差異を抑える方策を講じ次年度シラバス等に反映させた。
[教育課程] 教育課程は、大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培うよう編成している	[総合講座] 2021年度に作成した履修系統図を基に、科目と学修成果との関係性・バランスなどの観点から科目編成について再点検し、大学のディプロマポリシーに基づいた、より適切な科目編成を目指す。これをふ	[総合講座] 履修系統図の点検に基づき、今後の科目編成の検討を開始した。しかし、カリキュラム再編成の工程を完成するまでには至っていない。 (全学基本科目)

	<p>まえ、2024 年度以降のカリキュラムの再編成についての工程を検討する</p> <p>(全学基本科目)</p> <p>情報関連科目のうち「情報の処理 I」「統計の基礎」の内容を、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」の教育内容に合わせて調整の上で「常磐大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」として実施し、2023 年度の認定申請に向けた準備を行う。</p>	<p>「情報の処理 I」および「統計の基礎」の授業を、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に対応する内容で実施した。制度の申請に必要な授業実施実績 1 年を満たしたため、令和 5 年度認定に向けた申請準備を進めている</p>
--	--	---

4. 次年度に向けた課題と行動計画

本項 1～3 の点検結果をもとに、本プログラムを運営する総合講座委員会（全学基本科目運営会議）では、2022 年度の現状とその課題に対して、2023 年度以降の改善計画を以下のように設定した。

- ・総合講座委員会の各科目運営連絡会議を中心に、2023 年度に試行しているループリックを用いた学修成果の可視化等の取り組みについて点検・評価を行なう。その結果を踏まえ 2024 年度シラバス等に反映させる。
- ・また、履修系統図で再設定した到達目標の適切性について、成績評価結果なども踏まえ点検し、必要に応じて修正を行う。
- ・ループリックを活用した学修成果の可視化、その検証、方策の検討は、まず全学共通の必修科目（本プログラム対象科目を全て含む）において着手する。
- ・単位修得状況および成績評価の評定別分布の点検結果をもとに、適切な評価基準の在り方を検討する。

また、全学情報教育委員会（情報教育の授業運営に関する WG）では、2022 年の授業運営を踏まえ、2023 年度については表計算ソフトの活用度を上げることでより実践的な授業内容に変更することとした。

III. 学外からの視点

1. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

主な就職先である企業等に対して毎年実施している「卒業生に関するアンケート」において、本教育プログラムを修了した卒業生の採用状況や企業評価、採用意欲等を把握する仕組みを設ける予定である。これらの情報を総合講座自己点検・評価実施委員会で点検・評価し、プログラム改善の取り組みを進めていく。

2. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

主な就職先である企業等に対して毎年実施している「卒業生に関するアンケート」において、本教育プログラムに対する評価・意見等を収集するとともに、本教育プログラムの改善に活用する予定である。また、2023年度より設置する「常磐大学・常磐短期大学の教育研究活動に関する懇談会」において、教育プログラムの内容・方法や教育プログラムに関する点検・評価の取り組みについて、学外諸機関の関係者や有識者の意見を求め、改善に結びつける仕組みを整えている。

以上